

# だっこだっこあみだっこ

ぼく・わたしを育てるほとけのことば

花まつりのご案内

ヤサイのバテナ

くらしの歳時記

4コマまんが

母の悲喜こもごも

平成 28 年

3 . 4

東山浄苑東本願寺発！ママと子どものフリーペーパー  
だっこだっこあみだっこ です♪

あみださまは、おかあさんの「だっこ」のように、あたたかくわたしたちを見護（みまも）ってくださいている—そのことに気づいたとき、わたしたちは安心して、自信をもって生きていけます。

未来をになう子どもたちは社会の宝もの。その子どもを育てるパパ、ママも宝ものとも言われます。子育てはとても尊い大事なことです。いい子になってほしい、と思いながらも、ほんとうのやさしさ、強さってなんだろう？悪いことをしたらどう叱ったらいいの？—ほとけさまの教えが、悩めるパパ、ママのともしびになりますように。ぜひ、ご家族みなさんでお読みください♪

# ぼく・わたしを育てる ほとけのことば

今月のことば：「入滅」(にゆうめつ) — 静かに求めつづける —

仏教には、今のわたしたちにとっても、あたたかなともしびとなることばがたくさんあります。「ほとけのことば」から、わたしたちの日々のくらしの目標をかんがえてみましょう♪

## 入滅 (にゆうめつ) ってどういうこと？

「入滅」とは、滅<sup>めつど</sup>度すなわち涅槃<sup>ねはん</sup>に入ることを意味し、一般的にはお釈迦<sup>しゃか</sup>さまの死を意味します。「涅槃」とは、サンスクリット語では「ニルヴァーナ」と言い、「吹き消すこと」の意味をもつと言われていて、ありとあらゆる「煩惱<sup>ぼんのう</sup>」つまり迷いや苦しみがふき消されたさとり<sup>さんぶつき</sup>の境地に達することが「涅槃」です。

2月15日は、お釈迦様が亡くなられた(入滅)日と伝えられていて、「涅槃会」と呼びます。涅槃会と、降誕会<sup>ごうたんえ</sup>(4月8日/御誕生された日)、成道会<sup>じょうどうえ</sup>(12月8日/さとりを開かれた日)を三仏忌<sup>さんぶつき</sup>といい、尊いみ教えを伝えて下さったお釈迦さまに感謝をする大切な日です。

## 人々に教えを広める道へ

お釈迦さまは、どうすれば人間の苦しみをなくすことができるか、という大問題の答えを求めつづけて、ついに35歳のとき、さとりを開かれました。はじめはさつりの内容があまりにも深く難解なため、ほとんどの人々には理解できないだろう、とお釈迦さまは考えられましたが、梵天(仏教を守護する神さま)の説得を受けて、この教えを広める道を選ばれました。

はじめに、かつて修行仲間だった五人の僧侶に話して聞かせた(このはじめての御説法を、「初転法輪/しょてんぽうりん」といいます)ところ、彼らは感激してすぐさまお釈迦さまの弟子になりました。以後、み教えを1人でも多くの人々へ伝えるために、国から国へ、布教して歩かれました。

お釈迦さまの説法は、対機説法(たいきせっぽう)といい、その人の性格、特徴、その時の心の状況などに応じて、様々なお話の仕方をされました。先生が、勉強ばかりしている子どもには「もっと外に出て遊びなさい」と言い、遊んでばかりの子どもには「もっと本を読んで勉強しなさい」と言いますね。言葉だけ聞くと「遊びなさい」と「勉強しなさい」は真逆のことですが、その意味するところは「よい大人になるために今できることをしっかりやりましょう」ということなのでしょう。このように、お釈迦さまも、み教えを説く際、その人その人に合った説き方をされました。



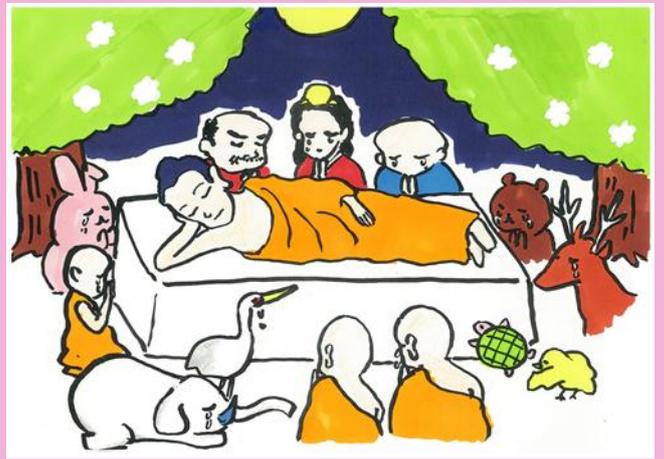
## お釈迦さま、最後の旅

お釈迦さまは、さとりを開かれてから45年間、国々を歩いて旅され、み教えを説き続けられました。80歳になられたお釈迦様は、クシナガール城外の川のほとりにたどりついた時、疲れと腹痛で一步も歩けなくなられました。

自らの死が近い、と感じられ、さらそうじゆ沙羅双樹の下で、頭を北に右わきを下に横たわられたお釈迦さまに、弟子たちは、「お釈迦さまがお亡くなりになったら、わたしたちはどうしたらいいのでしょうか」と涙を流しました。

お釈迦さまは、「わたしが今まで説いてきたとおり、この世のものは、わたしの体もふくめて、すべて朽ち果てていくのだよ。わたしはみなを導いてきたのではない。ただ真実を明らかにしただけだよ。わたしの体はなくなるが、わたしがみなに説いてきた真実の法（仏法）は永遠になくならない。おまえたちの中には、今までわたしが説いてきたこの真実の法があるだろう。あらゆることが無常（うつりかわっていくこと）であるこの世において、これからは、その仏法をしっかりといただいた自分自身に頼りなさい。そして自分が判断するときには、この真実の法によって判断しなさい。」と、最期に弟子たちへ説かれたのでした。

その後、お釈迦さまは静かに目を閉じられて涅槃に入られ、周りには、弟子ばかりではなく動物までもが集まったと「涅槃図（ねはんず）」に描かれています。



## どうしたら苦しみがなくなるか？

お釈迦さまが生涯を通じて説かれた教えとはどんな教えでしょうか？ 簡単にいうことはとても難しいことですが、根本は、この世のものごとは、わたしたちの体も含めて、すべてうつりかわっていき、変化していき、いつかはなくなってしまふもの。そのことを知り、正しく理解して受け入れ、自分中心のもの見方を捨てることで、煩悩（苦しみや迷い）をなくし、おだやかに静かな、けっして波立たない心、生き方ができるようになる、ということです。



わたしたちには、お釈迦さまが伝えて下さった人間の真理、真実の法（仏法）があります。

そして、生み、育ててくれたお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、教えて助けてくれる先生やともだち、まわりの人々がいます。そして人間以外にも、わたしたちを生かしてくれるたくさんの恵み、お日さま、雨などの自然もあります。

そしてなにより、わたしたちを一人もらさず必ず救う、とおっしゃってくださったあみださまがいらっしゃるのです。

たくさんのまわりの人や自然、あみださまに、日々感謝しよろこんで、お釈迦さまが伝えてくださったみ教えをこころのともしびとして、心おだやかに、しっかりと生きていきましょう。

# 親子仏法の集い-仏法に親しもう 土に親しもう!-つてなあに？

毎月第3日曜日（行事等に変更の場合あり）に、東山浄苑東本願寺の菜園で行っている親子向けの活動。  
なんでもありがたくいただいて、粗末にしない—古きよき日本人を育てた仏教の教えです。  
家族で野菜づくりや年中行事に親しみ、「いただきます」「ありがたい」の豊かなこころを育てましょう。  
乳幼児から中学生までのお子さんご家族はどなたでも参加できます。  
初参加歓迎！（初回参加は無料です♪）お気軽にお尋ねくださいね。



【活動日】毎月第3日曜日 【場所】東山浄苑東本願寺 【参加費】1家族1回 1,000円 **初回参加無料!**  
※ベビールーム完備 ※屋内無料駐車場有り ※参加ご家族30組限定 ※3月活動は第2日曜日に実施  
★お問合せ・参加のお申込みは★  
東山浄苑東本願寺 総合受付 電話 **075-541-8391** 毎日9:00 ~17:00

## —参加者募集中！今後の親子仏法の集いご案内—

\*初回参加は無料\*

4月 3日 花まつりの練習/トマトの植え付け  
4月 24日 花まつりの練習・リハーサル  
5月 22日 たまねぎの収穫/オクラの種まき

**10時~12時**

○場 所：東山浄苑東本願寺内 ○参加費：1家族 1,000円

\*\*事前にお電話でお申込み下さい。（なお、花まつり法要参加募集は好評のため締め切りました）  
\*\*野菜の生育状況などによって、活動内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承下さい。  
**雨天の場合は、「お念珠袋づくり」など室内企画を行います！お楽しみに♪**

「お下がりをいただく」ということを最近あまり聞かないかもしれません。  
いただいたお菓子や果物などは、まずお仏壇の仏さまにお供えして、合掌礼拝する。  
その後、仏さまのお下がりとして、そのお菓子をいただく—  
親子仏法の集いでは、この作法とこころを大切に、子どもたちに伝えています。

古きよき日本人のこころを育てた仏さまの教え。  
野菜づくりや、さまざまな体験を通して、一緒に成長しましょう！

